

ブラジルのバナナ新品種がコロンビアでTR4耐性を示す

[FreshFruitPortal](#) 2025年9月4日

フザリウム萎凋病熱帯株4(TR4)は、バナナ産業最大の脅威としても知られているが、間もなく対抗手段が登場する可能性がある。ブラジル農業研究機構(Embrapa)によれば、コロンビアで実施されたほ場試験において、ブラジルのバナナ品種「BRSプリンセサ」及び「BRSプラティナ」の耐病性が確認された。

この成果は、大幅な減収と輸出制限を引き起こすこの真菌の世界的拡散を緩和するための重要な一歩である。この真菌は主に、汚染された土壌、機具、履物、感染しているが無症状の苗木、及び観賞用の宿主植物を介して拡散する。

コロンビアでの試験

コロンビア農業研究公社(Agrosavia)は、Embrapa及びコロンビア・バナナ生産者協会(Augura)と協力して試験を主導した。試験は、コロンビアで初めてTR4が確認された農場で実施された。研究はコロンビア農牧検疫庁(ICA)の支援を受けた。

BRSプリンセサ及びBRSプラティナは、キャベンディッシュグループ(矮性)に属する高罹患性のウィリアムズ品種のバナナと並べて栽培された。最初の組織培養苗は2022年1月にコロンビアに到着し、ICAの施設で8カ月間の検疫を受け、外来病原体が付着していないことが確認された。

Agrosaviaの上級研究員で試験のリーダーでもあるモニカ・ベタンクール氏は、「成長したBRSプリンセサとBRSプラティナの苗は、既に病害が存在している地域の圃場に移植された」と述べている。

4回の生産サイクルが設定され、ブラジルの品種で3回目のサイクルまでに病害の症状を示したものは1%未満であった。

「5%~8%の範囲が高リスクと見なされるため、これらの品種は耐性があると判断している」と同氏は述べた。

ベタンクール氏はまた、生産性の比較は保留中であるが、これはプラタ、マサン等の比較対象品種が、過去のTR4の発生によりコロンビアでは既に栽培されていないためであると指摘している。今回のBRS系の遺伝材料は、キャベンディッシュ系統の耐性強化を目的とした育種計画の一環としても導入されたものである。同氏は、「それはEmbrapaの育種計画のコピーになるだろうが、育種の対象はキャベンディッシュである」と述べている。

ほ場試験

Embrapaのバナナ及びプランテイン(調理用バナナ)遺伝改良プログラムを率いるエドソン・ペリト・アモリム氏は、コロンビアとの協力により、ブラジルの交雑品種を実際の栽培環境下で試験することが可能になったと述べている。評価された3種のハイブリッドのうち1種は、2026年までに商業化が予定されている。

Embrapaの研究者であるジャンイ・アルメイダ・ドスサントスセレージョ氏は、キャベンディッシュ・グランドナイン品種の複数の派生系統もコロンビアに送られたと報告している。これらの系統は、ブラジルにおいて亜熱帯株4(SR4)に対する耐性を既に示しており、TR4に対しても耐性を持つ可能性がある。2026年までに少なくとも1種の耐性系統が特定される見込みである。

アモリム氏は、「課題は単に耐性を開発するだけではなく、品質、生産性、風味の面で生産者と消費者を満足させることだ」と話す。

Embrapaの植物病理学者であるフェルナンド・アダジ氏は、実験室の試験では既に耐性が示唆されていたが、耐性が確認されたのは病原体を圃場で接種した後だと指摘している。

この試験は、Auguraが資金を提供する広範な取り組みの一部であり、2026年まで継続される予定である。Embrapaは、その成果はブラジルによるバナナ育種、バイオテクノロジー及び分子レベルの研究への長期的な投資を反映したものであるとしている。